

講演演題名：Jones 骨折(第5中足骨疲労骨折)の治療

田中寿一（アイワ病院院長、ガンバ大阪チームドクター）

〈抄録〉

第5中足骨の骨幹近位部に横走する骨折線を特徴とする疲労骨折は、最初に報告した Jones の自ら経験を元にして報告したことから“Jones 骨折”と呼ばれている。我が国では、高校生から大学生の年齢層に好発し、競技別ではサッカー選手に多く発生する。サッカー人口の増加と、著名なプロ選手の発症したことにより、よく知られるようになった。通常の骨折治療では、再発することが多く、難治性であり、選手生命を左右する疾患といえる。治療は、骨を単に癒合させることでなく、如何に持続的に同部の応力の集中を防ぎ、再発を防ぐことで、選手のアクティビティを保つことである。講演では、1992 年からサッカー選手を中心に行ってきた“チタン製の中空型 headless double threaded screw の髄内固定法を中心に、自身の治療の変遷と pitfall、さらに適正な刺入の工夫などを詳しく述べる。